



### 縣清酒品評の出品 豫定通り五百點

#### 明十一日から審査開始

平市に開催の縣清酒品評會は、今日出品を締切り地元石城の出品百五十點、若松方面の出品百五十點を、須賀川、福島市方面の出品を合せ豫定の通り五百點に對し本縣商工技師竹内直衛氏の審査長に縣職工試場千葉佐仲技師外営業側から石城の本間善榮氏及び會津方面二名その他を合せて六名の業者による審査を明十一日から平稅務署樓上にて行はれ十四日の優位決定と同時に市公會堂に陳列十五日一般の觀覽に供し十六日褒賞授與の式を舉ぐる筈だが一般賞は聯合會長佐藤和右工門（福島）氏から最優等一點に對しては日本醸造協會東北支部長（仙台稅務監督局長）松山宗治氏より賞品費狀を授與されることになつてゐる向は前回の同受賞は會津銘酒榮川に獲得された

### 煙草耕作組合へ 八萬圓融通

平耕作組合八千圓 植田一萬八千圓 久の濱九千圓 富岡一萬六千圓 浪江五千圓 原町一萬四千圓 中村一萬圓（以上）

### 方面委員の大會と 社會事業講習會

十二日の委員會に引續いて 十三、四両日平市公會堂で 縣下方面委員第十八回大會町村長、同吏員及び社會事業は來る十二日午前十時から平市公會堂に於て開會、時局下の對處する諸般につき協議の演ある筈だが一般の聽講をも歡迎する

### 戰地 目下河北南省界の 便 鎮 警備

平市舊城址出身 永島少尉 拜啓、其の後は御無音に打過ぎ誠に申譯これなく候、時下秋の折柄各位には益々御健勝にて聖戰下統後の隨りとして一國國防に専念せられ且また我々にまで絶

### 常識 座談

ニユートラルは局外中立の不偏不黨の意で、ニユアンスなら色合の差異、陰影のこと、ニユーフアッションと云へば最新の流行または最新型の謂である

### 御懇情に副ひ度決心

#### 永山 勝經

平市四丁目出身 拜啓、國家總動員の日貴命益々御健勝にて御活動の由慶賀の至りに奉存候、陳者御多忙中にも拘らず此の度は澤山の御慰問品御送付下され御厚志有難く感謝申上候、今後一層奮勵致し御懇情に副ひ度決心致し居候間乍御敬念相成度候未筆ながら分令の各位へも宜しく御風聲下され御願上候、先づは書中を以て御禮申上度斯の如くに御座候、 早々

### 水野谷坑から 地蔵尊が出る

磐城炭礦が新坑を開鑿推進中の湯本町大字水野谷地内に火藥庫を設くるため他均しの岩盤掘鑿にダイナマイトをかけたる其の爆破の際に埋もれてゐた石地蔵（高二尺五寸餘）が傷一つ負はず掘り出されたので、志賀坑長を初め従業員一同は幸先よしと縁起に喜び爆破に微傷をも受けない不思議からこれを聖九除地蔵尊と名づけ同地に堂を造つて去る六日奉還を執行し郡民多數の参列もあり二日間参詣者に二圓近くの賽銭を得たので向後これを國防献金すべく國防婦人會の管理に任せることになつたが同地地蔵尊は形の上から相當古代のもらしく考古學者の鑑定を求めらる由であるが藤原時代のものかと思はれてゐる

### 夫婦共謀で 粉炭泥

警察偵察場から 石城郡内郷村の宮子金坂一五〇賣炭商田邊文四郎（同郷人妻）に因り共謀して昨年一月から本年六月まで繼續して同地磐城石炭積込み場から粉炭七百四十俵の價百四十六圓を窃取し平市及び四合町その他に賣却をせしむること發覺平警に檢舉取調中である

### 富士タクシーの 正直運轉手

謝禮を國防献金 平市白銀町富士タクシー方運轉手松本芳雄氏は此程東京市日本橋區馬喰町荻野勝芳氏を乗せ石城郡下小川村方面へ

### 五十嵐柳子刀自

日察統監署警務課警士五十嵐清治氏並に平市五十嵐産婦人科院長醫學博士五十嵐雄二氏母堂柳子刀自は平素頑健嬰傑として老後を博士宅に養はれてゐた去月八日突然腦溢血を起し鈴木、五十嵐兩博士の手當を受け加療中途中昨九日午前零時四十五分永眠した享年七十八、刀自は若き時代から精神勵勉家事にいそしまれ病床に入るまで針仕事を續けられてゐた、又子女の教育に全力を傾注、二男二女を最高學府に學ばしめた賢母である、計に對して永井逸相、堤康次郎代議士、新川町青年團平第三小學校、國婦第二分會から花輪を贈られ十一月一日新川町自宅に於て佛式により告別式を行ひ近く郷里千葉縣姊ヶ崎の墓地に埋骨の由

### 鎌田市道認定

平市に於て去る三月申請した市内鎌田町通りの廢道道を市道認定の件は申請の通り平神谷線（道路延長四六五米、橋梁一〇〇米計五六五米）として去八月付認可された

### 朝鮮映画の夕

東京鮮満案内所の朝鮮滿洲映畫の夕は明十一日午後六時半から平市公會堂に於て催されることが多數入場を歡迎すると

### 平女青敬老會

卅三日公會堂で 平女子青年團では來る二十三日市公會堂に敬老會を主催し高齢者を招待の筈だが當日市教育會では出征兵の遺族を招き市内四ヶ小學校の聯合學藝會を催すと

### 花賭博一網打盡

石城郡内郷村の綴子町の内管 母柳子儀豫テ病氣ノ處養生不相叶今九日午前零時四十五分永眠致候ニ付此段御通知二代へ謹告仕候

追テ葬送ノ儀ハ來ル十一月一日午後二時自宅出棺 佛式ニ依リ火葬場ニ於テ告別式相營ミ申可候 尙御供物ノ儀ハ故人ノ遺志ニ依リ乍憚御辭退申上候 十月九日 平市新川町十二番地 五十嵐清治 五十嵐雄二 外親戚一同

